



熊澤先生

中庸小解



BE12  
1006  
1



1006  
卷1-2



### 中庸小解上

中庸、書に居る。ありて受用之法也。故に孔子傳授の心は也。と云わ。中、寂然不動、至色、至臭、乃至真也。故に云下れ、大なる也。と云わ。庸、平常也。天下に達道也。堯舜は中と云ふの、さう云わ。中、則常也。後世中と云ふ、いふ、庸、乃徳見、さう、故に孔子中、れ、内、わ、庸、字、は、い、ま、出、し、て、中、庸、と、の、云、わ。和、諧、は、心、を、さ、う、ら、し、と、い、ふ、中、を、さ、う、ら、し、と、よ、う、ら、し、禁、中、は、さ、う、ら、し、と、い、ふ、物、の、主、は、内、に、在、り、徳、の、つ、く、ち、也。心、の、形、色、聲、臭、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、主、の、心、と、内、外、を、さ、う、ら、し、と、い、ふ、さ、う、さ、う、ら、し、と、い、ふ、さ、う、ら、し、と、い、ふ、中、は、云、地、造、化、乃、主、也。右、虚、は、さ、う、さ、う、



古くは...  
夫れ教と...  
あつた...  
しる...  
此れ...  
思ひ...  
一...  
乃...  
中...

蔵也。庸、用也。くもくして天下に用むるすは  
心すも。費、隱の義也。用、未發の中、天下、天  
下、たることなりまむ。

### 天命之謂性。率性之謂道。脩道之謂教。

天ハ形象乃天よ何んんん。理氣也。二五ノ氣也  
其形也。無形れ理氣其心也。其氣也。其心也。人物  
の形を命す。其理を率て。人物の性也。命を率て人  
の性也。乃命を率て。理也。明也。徳也。其理也。直也。  
乃て動靜煩也。頭乃海もす。其心也。是れ也。  
也。首の法也。水格なり。其心也。是れ也。  
其心也。是れ也。其心也。是れ也。其心也。是れ也。  
其心也。是れ也。其心也。是れ也。其心也。是れ也。  
其心也。是れ也。其心也。是れ也。其心也。是れ也。

中庸の解

手ハ東西ハ一耳ハ五音ガ二律ニ通シ口ハ五  
味ニ通シ目ハ五色ニ通シ鼻ハ五臭ニ通シ  
故ニ万物ノ灵長ナリテ大ニ通シ  
強ニ制シ徳ヲ施シ配シ多シ造化ヲ物ク他ノ性  
ヲ皆頭ニ横ナリテ身ニ未ダ頭ヲ下ナリ人比  
ノ形ニ似ズルニ動質偏塞ナリ也故ニ精神  
ヨドリテ乃灵覚ナリ也故ニ圖昧ナリテ形氣  
欲ありノ也造化此人ヲ生シテ糟粕ナリテ成  
同ノ氣感也トナリ也欲ニ心ナリテ形氣身  
ノ何ニナリテ感ナリ也故ニ何ニ感ナリ  
トナリ也感ニ元ト云乾ノ四徳ハ長也人ノ  
仁也元亨利貞ハ命也仁義礼知ハ性也仁ハ本

ノ一也春ハ仁ハ少也秋ハ義ハ少也  
仁ハ金神ナリテ秋ニ少也知ハ水  
神ナリテ春ニ少也故ニ人性別テ命也  
偏奮深ク習子ト修ムルハ性ヲ存スル也  
性也ト云多シ也朱子云人生而静以上  
是人物未生時只可謂之理人生以後此  
理已墮在形氣之中不全是性之本体  
矣ト云日月星辰ノ一也此ハ命ノ一也  
元亨利貞乃天ノ性也仁義礼知乃性  
ノ一也程子云理天命也順而循之則道  
ナリト云

道奇云我性凡人より欲して...  
 人性神ありて仁義礼智の條あり。是より欲して...  
 云々性より欲して道也。又乃の相伝する...  
 相伝する。五傷の相伝する。又典十義の別あり...  
 人より欲して仁義礼智主と成し。欲を制す...  
 事也。欲を制して養はるに禽獸也。養はるに...  
 多欲して欲して人より欲して欲して欲して...  
 不仁より欲して欲して欲して欲して欲して...  
 人者、形有れば欲して木火土金水の氣、元亨利貞...  
 の理より欲して欲して欲して欲して欲して...  
 星辰常を不失。天地の氣より欲して欲して...  
 多欲して欲して欲して欲して欲して欲して...

易一。故に性より欲して欲して欲して...  
 と之を五傷の交あり。性より欲して欲して...  
 とす。人れ知る賢不肖の所より不及あり。人道及損...  
 れる。故に徳不徳善不善は、知る人善は、...  
 惡を去りて道より欲して欲して欲して...  
 無惡人之性、天之命也。止惡明善以順天命。君子脩道...  
 之功出治之本也。率性乃道也。一と云仁也。天乃...  
 性也。乃感也。東山一陽来後、癸より温厚乃氣...  
 東南に感也。是天地に感して仁氣也。天道義...  
 性に感西南に感して西北に感也。是天地に感して...  
 樂、陽より感して西北に感也。故に礼樂仁義...  
 用也。知仁を礼の神、信仁を神、四時各々自...

ありてし。誠ハち動レ神レ。誠ハ多レ礼ノ少レ也。  
一ハ多レ人ハ礼同レ。一ハ少レ也。是レ也。是レ也。是レ也。  
一ハ少レ人ハ先レ是レ也。是レ也。是レ也。是レ也。  
一ハ少レ人ハ先レ是レ也。是レ也。是レ也。是レ也。  
一ハ少レ人ハ先レ是レ也。是レ也。是レ也。是レ也。  
一ハ少レ人ハ先レ是レ也。是レ也。是レ也。是レ也。  
一ハ少レ人ハ先レ是レ也。是レ也。是レ也。是レ也。  
一ハ少レ人ハ先レ是レ也。是レ也。是レ也。是レ也。  
一ハ少レ人ハ先レ是レ也。是レ也。是レ也。是レ也。  
一ハ少レ人ハ先レ是レ也。是レ也。是レ也。是レ也。

修レれ教也。仁義礼知信、性ノ條也。ありてし。一ハ少レ也。  
**道也者不可須臾離也。可離非道也。是故君子戒慎乎其所不睹。恐懼乎其所不聞。**  
夫レ万物、賦與レて、自ヤヒシトシ、レハ合也。  
レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。

レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。  
レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。  
レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。  
レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。  
レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。  
レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。  
レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。  
レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。  
レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。  
レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。レハ合也。

**莫見乎隱。莫顯乎微。故君子慎其獨也。**

中庸小解上

五

隠はつておきてあつておきておきておきて。傲は發する人だが  
甲で發せざるなりまばし也。こも小人乃痛ら西に  
して君子は慎む可也。独は中わゑ前之性も  
慎むに致乃もまらる也。君子小人はよくよく  
小人悪人とて。ぶ弊時此地して不音はす  
ふるにねし。皆能慎むとて。公界よりと隠傲は  
可の情さつらひぬらぬ也。人こもこも知にさうく  
し。あつたもあつたも彼うくはま知は根の  
まらぬ。あつたもあつたも。人とうくまらぬ。人よ  
知とらぬ。隠傲は天地の通する也。人皆一  
の性なり。故よく行ふ。君子のゆゑ。一  
もはぬ。小人はよく知る。不也。まらぬ。君子

る徳人のあつたも。心思よく慎む。一は。あつたも。こ  
知らぬ。界よりと知。一思也。心の通する。あ  
つたも。

喜怒哀樂之未發謂之中。發而皆中節謂之和。中  
也者天下之大本也。和也者天下之達道也。

喜怒哀樂ハ七情也。行て之ら七情ハ喜怒哀懼  
愛惡欲也。未發は發して七情乃發せざる以前に  
中とし。又其中は發し。多和とす。一は。中  
中ハ天下の大本也。一は。其の道也。喜怒哀  
樂して節し中る。其の長樂も停也。其  
怒哀樂の中にて。是れ欲乃性なり。是れ万事万物  
是れ大なる也。是れ欲乃性なり。是れ万事万物

其よ物れ根をたらし物ハ和申後行つるもさうらうら  
本乃根を中よのくまらしてあつたれず。これれに  
春花夏秋黄の四もあがらば。発して其れよ  
わららる也。形あり物ぞんぬ此。いんや中ハ形を  
声真れし。七情のまご発せば善念惡念とこれ  
まげざる。寂然不動れぬ。おわけて。天下の人を  
おみまべし。此大本立四ハ七情発して即ち中  
ハ七情未發乃時のぬるん。已發乃時を發さず。是れ  
人の肖よぬる。おみまべせらぬ。此ハ不動とて  
たつてぬる。物あり。一也。此用ハ背乃不動とて  
してす。おみまべ七情のぬるよ。さうらうら。節ハあつた  
と。中ハ不動とて。中ハ不動ハ背れと

くはらららららら。はららら。至神至動なまこと。欲  
やららら。おみまべ也。是れ乃寂然不動と。天下の人  
あり也。天下の主やらら。ぬるん。中とて。中ハさうらと  
いふ。所あり。さうら。中ハはららら。さうら。ぬるん。と  
さうら。天下の人をたらし。中とて。いん。道あり  
ふらら。和といわ。呂氏云當其未發此心至虚無所  
偏倚故謂之中。以此心而應万物之變無往而非中矣と  
之わ。

致中和天地位焉萬物育焉

致中和大本立してさうららら也。大本立して地ハ  
天地と述す。合一。達道行つる。造化を助る。  
故よ大本立して地ハ天地位し。さうらららららら。

中庸小解止



万物育以。天地人を三才と云。一と云ふは位育  
今く。人たる地の徳神明の令立り。其氣に  
し。多。其物乃長ず。而位乃同ふ。人の心。人乃  
身中。精神のより。故。人たる地の心も  
上。一。人の徳明か。か。下。の人民習邪。故。人乃  
正。乃。心。皆。善。人。と。なり。之。を。人。氏。聖。人。と。向  
心。同。徳。有。る。也。是。を。自。新。よ。す。り。氏。を。興。す。と。い  
へ。り。堯。舜。乃。治。世。の。位。育。の。正。也。人。格。多。く。は  
て。位。を。令。く。位。せ。ず。万。物。を。令。く。育。せ。ざ。也。人。は  
心。を。正。す。と。い。ふ。は。誠。乃。人。か。ら。ざ。ら。ざ。り。心。邪。を  
是。は。百。の。皆。あ。や。ま。り。乃。令。令。く。は。家。を。久。く。さ。す

ず。是。我。身。に。在。り。位。位。せ。ざ。ら。ず。下。位。よ。ち。上。り。て。位。育  
人。の。造。化。を。不。助。と。い。ふ。我。は。お。わ。り。て。天。地。位  
一。を。和。育。以。其。徳。後。世。に。及。て。む。一。は。故。に  
聖。人。の。在。り。地。を。位。一。を。物。を。育。す。は。正。也。未  
發。れ。中。に。わ。る。き。ひ。来。る。と。い。ふ。也。

仲尼曰君子中庸小人反中庸

君子は中庸なり。小人は反中庸なり。中庸は  
ひ。し。ら。を。も。つ。子。と。い。は。中。庸。は。全。術。を。と。ら。ん。と  
あ。ら。ん。子。則。一。固。乃。中。庸。なり。小人は心術を  
中。庸。よ。く。し。く。ま。ら。ず。

君子之中庸也。君子而時中。小人之中庸也。小人  
而無忌憚也。

中庸、解一

又らくは似也者行り。不知者もはるよるわ。君子は法  
 よびらぐし。法よびらぐし。時と共くは愛陽也  
 多しを以て。不遠のより心よ正しけれ。年と共くは利  
 にたまひ。色と共くは悦にけり。小人也。心根  
 ちち地ゆつし。天と地并めると恐もせず。氣稟を而  
 して。人を回ると思ふ。君子は孝同する。しては実  
 ねとわ。是中庸庸ことりして。人をまじさす。その  
 所。君子乃中庸の道ありて。故に中庸  
 下らちと。小人は中庸と。つら。小人  
 ち。この時のがふ合せしむるなりわ。  
 子曰中庸其至矣乎。民鮮能久矣。

中庸の道遠なり。故に常よりしあまはし。

人氏はねらうがす。そのれし。ちりて。と徒  
 ち。よろう。み。を。の。の。の。の。

子曰道之不行也我知之矣。知者過之。愚者不及也。  
 道之不明也我知之矣。賢者過之。不肖者不及也。

此知者ハ知者ハ知者ハ。高明廣大の意見あり。る  
 也。愚者ハ世間愚痴の者に。格法なき。れ  
 ち。わ。時。所。位。よ。不。叶。ゆ。な。し。し。い。り。の  
 道。知。た。ら。わ。と。思。ふ。ん。が。わ。或。ハ。高。も。も。或。ハ。法。よ  
 落。共。し。道。の。行。な。し。ご。り。あ。也。さ。さ。ら。も。ね。格。に。  
 不。及。ま。り。て。得。ら。わ。す。賢。者。ハ。稱。者。乃。知。る。わ。

中庸小序上

七

氣雙正しく生れりて存まれば孝子なりてい孟  
宗るこれ教むわ孔門にして子羔さして温公さど  
てわうらみらうらと君よとあつとせし重人夫  
賢るわいゆらりてえゆり人也とあつとせしと知りし  
不足しとあつとせし中するのみとあつとせしとあつと  
人なりとあつとせし地なりとあつとせしやあつとせし  
志よあつとせし不肖者と常わあつとせし不肖し  
いあつとせしを回知ありて存まるとあつとせし又て思  
よ叶つとせし思つとせし或いあつとせしあつとせし  
るあつとせしあつとせし同也者賢者有正し地なりとあつと  
つとせしとあつとせしと名あつとせし飲真さあつとせし  
よあつとせしとあつとせし凡心なり平生安する可也凡人

よあつとせしとあつとせし不肖者とは同位なり不肖者  
一向道をとるは愚るるるをせしとあつとせし凡情  
其あつとせし賢るる凡情なりとあつとせし地なり君子也  
知るとい位也知見の知者凡情なりとあつとせし  
何れなりとあつとせし賢るるは各別なりとあつとせし  
いは凡情なり見而乃言するは不肖なりとあつとせし  
何れなりとあつとせし故に賢るると同位也とあつとせし不肖  
い道なりとあつとせし何れなりとあつとせし世回れ愚る不肖  
かあつとせし愚るるは化法をせしとあつとせし不  
肖るるは化法をせしとあつとせし何れなりとあつとせし  
あつとせしとあつとせし何れなりとあつとせし

人莫不飲食也鮮能知味也子曰道其不行矣夫







畢竟多を知て人一つ一物も知をえんぬる  
多し物乃餘好のうごと其物乃中也飽食味此  
を好まぬたりと其事乃中也人えんぬるごと  
よごとれ根多れ人通よまると中庸をえんぬ

子曰回之爲人也擇乎中庸得一善則拳拳服膺  
而弗失之矣

乃人の顔子れ人ぐ也擇中庸ハくり中庸  
れ四徳よみぐ也これをまあふ言いよとるこれ  
まききバ強し一前よらうとよとる後よ  
この章顔子乃中庸にえんぬる也一善ハ一事  
れ名よらうと一ハ不二也不二乃名ハ至善ハ

至善ハ朝して其爲よらうとられ此は也拳々服  
膺ハ至善よ止を受用也止至善乃受用ハい  
一拳々と拳持し心胸よあてて不欠ぐ  
必事とてふことあり意とてとる此助け長  
ふことなり此あてて事なり此是則拳々服膺  
乃善也孟子ハ至善乃真に堪えり同顔子の此  
言くいよかこれ諸道乃切て此に  
あてて中庸に擇して一善に得るといふ  
えあふ事ハ強し目力見解に以てむ  
ざらむ也此ハいよとる力号に以て入  
しむ也此ハいよとる力号に以て入  
よ求つては是則得るとも同とるハ中庸に





一は強くす。けんぢが強ハ中庸乃強也。此亦受用す  
づ此強くともさす。寛柔以故不報を道ハ佛民れ  
愚辱是悲。老子乃報怨以徳。教也。つらあきくす。と  
不怒。相をやづら心ハ。故ハ邪鬼に成りてさく。虎  
復毒地と云ふ。さくハ。廣大の強也。君子ハ  
あつ人ハ強をさす。是ハ。中約ハ。君子ハ  
つらさ。社金草死而不厭。甲冑を枕す。ハ。時ハ  
家と。一命ハ。多クハ。何とも思ふ。事ハ  
病死す。ハ。我死を恨む。思ふ。ハ。秋日。今  
これハ。勇強ハ。生れ。ハ。此をさす。これハ  
居。故君子和而不流。ことハ。中庸ハ。強を説く  
是。吾人。受用者。乃受用。ハ。此強也。可也。一物

我下と云く。又偏くわす。和ハ。さす。不  
流。ハ。剛強也。矯ハ。武也。貌也。詩ハ。と矯。ハ。虎  
と。ハ。強也。矯ハ。ハ。贊。歎也。辞。直。と。立。法。ハ  
立。と。和。也。さす。ハ。不。流。と。ハ。さす。ハ。さす。ハ  
つら。磨。ハ。同。ハ。さす。ハ。さす。ハ。さす。ハ。さす。ハ  
不。流。ハ。其。ハ。強。を。み。さす。ハ。故。ハ。これ。を。贊。歎。也。  
睽。乃。象。傳。曰。上。火。下。澤。ハ。睽。也。君子。以。同。而。異。也。離  
火。ハ。の。が。つ。と。光。澤。ハ。下。也。睽。ハ。さす。ハ。さす。ハ。さす。ハ  
和。を。用。ハ。一。卦。と。さす。ハ。君子。ハ。此。象。を。用。て。小  
人。と。同。居。ハ。也。和。ハ。さす。ハ。さす。ハ。さす。ハ。さす。ハ  
と。さす。ハ。義。ハ。さす。ハ。小人。ハ。利。ハ。さす。ハ。さす。ハ  
ハ。大。和。ハ。さす。ハ。小人。ハ。小。和。ハ。さす。ハ。小人。ハ。志



こいつと彼とをこころず。却て徳をめぐり砥石と  
す。黄鐘の如くとも樂と悲極くなくとも感也。子  
死よ即ちこころず。平々其の如くとも愛くや。正ましく  
死をたるとび。これ中庸の強きなり。

子曰素隱行怪後世有述焉吾弗為之矣。

中江氏云素の空也。隱のとく大此こと。吾声を具の實行  
なり。素の隱の此實行をこころず。夫れいふこと。故よ不測  
乃神行をたるとび。何れ一其事にや。後世に以て  
怪れぬ。久しうして傳述するものあり。孔子の  
さうし。れり。こころず。也。お知りのふり。後世  
家れ長生形々の術具をたるとび。黃帝老子を祖  
とす。此家傳を猶廻の説とす。釋迦達磨は從

す。是皆を群を具乃實行をたるとび。夫れ述ひて怪れ  
ゆ。孔子の如く。久しうして傳述するものあり。孔子の  
王者久しうして。世に道く。此を。或曰。新氏  
空を以て宗とす。未だ他に。先を以て。我  
真傳とす。其化可也。を以て。皆幻とす。人事とす。  
て。粗迹とす。おろく。屏除き。推す。真見よ。幽人と  
す。いふ。吾声を具の實行をこころず。夫れいふこと。故よ不測  
乃神行をたるとび。何れ一其事にや。後世に以て  
怪れぬ。久しうして傳述するものあり。孔子の  
さうし。れり。こころず。也。お知りのふり。後世  
家れ長生形々の術具をたるとび。黃帝老子を祖  
とす。此家傳を猶廻の説とす。釋迦達磨は從

數也。幽明死生、宜各のこし。何れも  
や、地而いまだらて、幽隱のほをゆく、何れも  
求り、不測の計をたく、非通邪術、入乃數也。  
孔子の時、さやれ、ゆいなる、いどし、あけり、下  
非見、く、い、の、こ、い、い、あ、流、遠、く、る、な、れ  
ど、と、平、え、月、い、ね、真、れ、非、也、州、用、の、春、夏、秋  
を、日、月、星、辰、風、雨、露、雷、人、乃、の、礼、樂、の、め、は、く、  
怪、ま、い、妙、奇、特、く、正、道、を、あ、く、幽、深、た、く、を、連  
む、や、わ。  
君子、遵、道、而、行、半、塗、而、廢、吾、弗、能、已、矣。  
け、君子、ハ、大、抵、君子、ノ、凡、あ、る、人、也、と、く、惡、ハ、一、中、  
ち、一、地、生、け、故、ノ、道、ノ、志、ノ、一、い、り、て、と、と、く、ん

君子遵道而行半塗而廢吾弗能已矣

君子、依、乎、中、庸、遯、世、不、見、知、而、不、悔、唯、聖、者、能、之。  
け、君子、ハ、有、德、れ、君子、ノ、時、處、位、を、け、つ、し、て、道、は、い  
る、よ、さ、ら、た、依、乎、中、庸、と、く、下、道、を、い、り、ぬ、く  
ま、る、く、し、故、ノ、小、人、ノ、智、を、さ、け、て、悔、め、し  
遯、世、ハ、山、林、川、澤、ノ、か、く、る、よ、り、く、ず、或、ハ、小、官、に  
あ、り、れ、ど、と、大、ノ、志、を、真、し、入、世、の、受、用、ハ、世、に、さ、ら、く  
是、を、半、塗、り、し、て、廢、す、と、と、わ、大、く、さ、ら、く、て、い、ぬ、く  
ど、あ、り、く、し、真、知、の、き、く、て、道、ノ、志、す、と、地、や、ん  
く、し、と、や、れ、く、れ、ず、終、ノ、至、所、ノ、い、ら、る、や、わ  
又、道、ハ、至、滅、け、り、が、あ、る、と、身、之、人、道、ハ、め、ま、さ、に、滅  
ゆ、く、滅、あ、る、と、や、ま、り、ず、半、塗、り、し、て、廢、す、り、し、と、い  
た、い、ず、

君子依乎中庸遯世不見知而不悔唯聖者能之



夫婦之愚可以與知焉及其至也雖聖人亦有所  
 不知焉夫婦之不肖可以能行焉及其至也雖聖  
 人亦有所不能焉天地之大也人猶有所憾故君  
 子語大天下莫能載焉語小天下莫能破焉

君子乃道之人備之何人皆良知何人夫婦之  
 愚者ありし不孝一して然し道徳を修むる人  
 といふときいひあつてはあつては知れりといふ  
 之を窮といひて道よりの人皆良人よありし  
 多夫物道徳之人皆良能あり其丈夫夫婦之不  
 習しといふことありし故も夫婦の不肖を以  
 て之れ一して聖人小能ありし能はる能ざる所ありし  
 故も聖人小能ありし能はる能ざる所ありし

ず。天地と形ありあよびくふあありしおれよ  
 形神のよなきつて道徳はくくく地大がれと  
 天と地とのす天大なるまきととを虚を能るの  
 あり道乃大なる形あり下下のくくくありし  
 又形ありしれい微かや形ととやありしとありし  
 道乃小なる形ありしやありしとありし

詩云鳶飛戾天魚躍于淵言其上下察也

鳶乃天魚乃淵形をあらみよと上下不相通也天  
 地乃大也形ありしとありしとありしとありしと  
 形ありしとありしとありしとありしとありしと  
 上下ありしとありしとありしとありしとありしと  
 ありしとありしとありしとありしとありしと

澄地の中民云と下れよハ解わるとのるこ下ハ飛

君子之道造端乎夫婦及其至也察乎天地

夫夫婦也。地也。夫婦の如く。地の如く。の如く。礼儀の如く。夫婦の如く。地の如く。の如く。交泰して。君臣の如く。夫婦の如く。天地の如く。の如く。交泰して。下交して。地卑きれば。其氣と交し。卑さるる。交りて。交和の如く。夫婦の如く。一家の如く。の如く。行て。天下と。人の如く。立して。天地と。道を含する。端ハ夫婦よ。けり。故ハ詩ハ。圖雖よ。か。易と。乾坤よ。く。は。と。わ。夫婦の如く。父子親と。父子

親と。く。君臣の如く。兄弟の如く。朋友の如く。信の如く。故

子曰道不遠人人之為道而遠人不可以為道

後世人傷れぬよ。道を求つ。地兆の如く。に。此乃戒り。其は。流出来て。人倫よ。と。山林の如く。又。佛教渡りて。よく。人道を。了。道感よ。成。道。人傷。禽獸。近。天。南。人傷。常。中。乃。乱。風。信。行。費。見。早。近。火。明。人。道。火。徴。火。い。中。庸。の。よ。は。れ





能也。所求乎朋友先施之。未能也。庸德之行。庸言

之謹。有所不足不敢不勉。有餘不敢盡。言顧行行

顧言。君子胡不慥慥爾。

一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

我よ孝あらんことを求ふは、真実實をわびては、

りず。よらんことを求ふは、真実實をわびては、

ししては、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

乃下よは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

のら子よは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

し、の徳今も、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

時、万事皆正也。一して明送一致也。故よ子に求ふ

こと。父よは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

大身小身とも、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

う。字は、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

是と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

居をば、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

は、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

思ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

りの良背正也。乃には、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

あつと、兄弟、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

和也。一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、一と云ふは、

あり賢人なるがごとくして存するがごとくして  
 友らと交るひは正意之故に報礼するがごとく  
 己に礼すれども彼に礼す我を愛するがごとく彼を愛  
 するが故に先づ己の徳を施すに及ばず。夫婦の徳を  
 和らざるに及ばず一より一なり。故に一偏を略  
 して四とのさまんわ。是は孔子他人よりくつりて  
 忠恕をわ一貫に入れば法を従ふに聖人の良背  
 正意をまとい一貫也。夫れを和らむに十分得むは  
 思ひぬくべし。聖人乃ちよけし。みおのつてあつて  
 思ふことあり。庸ハ常也。約ハ徳をいふ  
 言ハ謙をいふ。約ハ常に不足あり。故に約し  
 言ハ常に餘りあり。故に約し。言ハ常に徳

よるや。故に約をくつらら。約ハ常に言  
 不及。故に言をくつらら。約ハ常に徳を  
 言不及。故に言をくつらら。約ハ常に徳を

**君子素其位而行不願乎其外素富貴行乎富貴**  
**素貧賤行乎貧賤素夷狄行乎夷狄素患難行乎**  
**患難君子無入而不自得焉**

素ハ物に在る也。五彩乃質也。素其位ハ在るは其  
 子の意の意也。君子ハ道を行らぬを好む。好むは

とんて留中をまじむ礼をぬき人をうぐむこれ留中  
の處すら道がむを夷狄のわが物具方かたうく  
道を樂して夷狄のこごまはしむ是夷狄の病  
るを夷狄よ入ては方夷狄の風俗とことり  
てよく衆をいれ酒をひて彼に氣は化し不  
知不識悪ねいりこの言より川の時あつて礼  
樂起るなり是夷狄の病のなを患難をなす  
心乃大勇けしして常らわるといふ氣をなす  
人の憂屈すらぬやぐさあつた先と難をま  
わらぬ道をあつては知仁勇共よりわらぬ地は  
是患難の病れたる無入而不自得の君子は其  
はあつては夷狄の言をいれし所として

孝よあつては孝の道をはりて也天地の陰陽  
人をして順逆の一也冬は寒れ用さし夏は暑れ  
用さし春は來たけりしとくは順逆の人の  
常を和む用し順を好む逆をよみ天は陽の  
ことりして陰のものと欲すもつて是れ也  
人心は九心とて此四九人より見まは當中人の  
順して三の逆がわ君子よりみまは皆順の當  
貴やりの時あつて施し衆をうぐむことと樂し  
と君子のつら時あつては身をよくし酒を成  
しと樂しと夷狄よ入ては易簡のしして  
多く道をまをりてはよくと樂しと患難  
よをさして志は堅くし酒をみぐりて樂し

ひ孔子匡と陳蔡よりして絃の声絶つてくづり文王  
羨里よりして易に他多つらうくく入るる自  
せすともうやまのむ也まふれ樂しむまを  
ア一孝道兼他宮より南面れ王樂し及まのま  
はひのれおとせよらまとの樂にわは是若る  
乃樂を形言せんといふま及ま中江氏素  
ら空りわ其位まじましくしてゆと舞ま下  
は有まあつらうくざらり意りわ

**在上位不陵下在下位不援上正己而不求於人  
則無怨上不怨天下不尤人**

下をまわらぐいあまらうくわめ或はくまむ  
子教之奢し用いめいごまの分限の家人の扱

まくれ一流浪やりの困窮せまか百姓よ田  
不足れ米を催促し妻を離散せり餓らえ  
しじ貧富の合れ自然りら一富家をかんを  
言先をとりまどしり過心よ  
トをまわらぐ乃も務也よまをり下を志わら  
則下を病り上をらく心と成也よあらんを  
とむくと一心りら一も心あしむ  
何り心わられくあご欲乃求るま初め奉  
しはよ志功乃らまはつらま其心よ  
はすよ也利欲は心よまはつら  
て愛しやすし心乃ま初め  
りまをらまはつらま初め

ちうとて君子のよはらむは下はたむるはむるを  
 之れを下のあむくよはたむるを魚のやうに  
 之れを下のあむく君子のよはらむるを小人のあ  
 るとて不<sup>レ</sup>知<sup>ル</sup>故<sup>ニ</sup>君子のあむくは正しく  
 らむ心は下の人に求ふにれ一人は求ふにお  
 凌ぎの根をむるよはたむるを怒り人に求ふよ  
 人を求ふ人よ求むる人よ求むる人よ求むる  
 人を求むる人よ求むる人よ求むる人よ求むる  
 人を求むる人よ求むる人よ求むる人よ求むる

故君子居<sup>レ</sup>易<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>俟<sup>テ</sup>命<sup>ヲ</sup>小人<sup>ハ</sup>行<sup>レ</sup>險<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>徼<sup>テ</sup>幸<sup>ヲ</sup>

君子の胸中明瑩洒落光風霽月れ  
 小人の胸中不明瑩洒落光風霽月れ  
 小人の胸中不明瑩洒落光風霽月れ

俟<sup>レ</sup>命<sup>ヲ</sup>のいふは下はたむるはむるを  
 小人の胸中不明瑩洒落光風霽月れ  
 小人の胸中不明瑩洒落光風霽月れ  
 小人の胸中不明瑩洒落光風霽月れ  
 小人の胸中不明瑩洒落光風霽月れ  
 小人の胸中不明瑩洒落光風霽月れ  
 小人の胸中不明瑩洒落光風霽月れ  
 小人の胸中不明瑩洒落光風霽月れ  
 小人の胸中不明瑩洒落光風霽月れ  
 小人の胸中不明瑩洒落光風霽月れ  
 小人の胸中不明瑩洒落光風霽月れ  
 小人の胸中不明瑩洒落光風霽月れ

子曰射<sup>ハ</sup>有<sup>レ</sup>似<sup>レ</sup>乎<sup>ヲ</sup>君子<sup>ハ</sup>失<sup>レ</sup>諸<sup>ヲ</sup>正<sup>ニ</sup>鵠<sup>ヲ</sup>反<sup>テ</sup>求<sup>テ</sup>諸<sup>ヲ</sup>其<sup>ノ</sup>身<sup>ヲ</sup>

君子の射は似乎君子失諸正鹄反求諸其身  
 君子の射は似乎君子失諸正鹄反求諸其身  
 君子の射は似乎君子失諸正鹄反求諸其身

さきぞいづかふおれよりいづかひにありてあまむ  
あまむれん下よまをけりあまむゆとわらぐことし  
我十分道はくして人今くまむまこと人まむ  
むかふことつらきもあまむとあまむの吾も徳あり  
あまむれん下よまをけりあまむゆとわらぐことし  
人まむまむむらむむらむも也。蹇れ象傳云山上有水  
蹇君子以及身脩徳とつらき。坎水の險隘ありて  
れしてすむとつらき。艮は峻阻後より道あり  
しも退くことつらき。及身ハ艮乃背より止るむら  
脩徳ハ坎乃一心よごらむ。及身ハ山は不動より  
脩徳ハ山は心を潤してまむ。蓄がごとく。君子  
人を愛し。人を治め。人を礼す。及して人を治

亦も。皆我がよ不也。蹇ハ君子を道ハ世ハ居れ  
象ハ君子ハ小人ハ治め。君子ハ小人ハ治め。小人  
ハ君子ハ治め。君子ハ小人ハ治め。小人ハ君子ハ治め  
也。君子道をゆりんとす。小人ハ君子ハ治め。小人  
ハ君子ハ治め。君子ハ小人ハ治め。小人ハ君子ハ治め

君子之道辟如行遠必自邇。辟如登高必自卑。詩  
曰。妻子好合。如鼓瑟琴。兄弟既翕。和樂且耽。宜爾  
室家。樂爾妻孥。子曰。父母其順矣乎。

君子ハ小人ハ治め。小人ハ君子ハ治め。君子ハ小人ハ治め  
也。君子道をゆりんとす。小人ハ君子ハ治め。小人  
ハ君子ハ治め。君子ハ小人ハ治め。小人ハ君子ハ治め  
也。君子道をゆりんとす。小人ハ君子ハ治め。小人  
ハ君子ハ治め。君子ハ小人ハ治め。小人ハ君子ハ治め

中庸

七

仁にして行を以て妻子に對して卑を以てしりやうか  
仁と好合れ道に天地に配す凡人の合と云ふ  
情欲におぼしき和は流るるが如く然るる和せざる  
可くなくとも和せざるも其に道は行はぬ故は和を  
のちくばる妻子の好合と云ふは瑟琴を以てくくし  
瑟琴ハ二物に和せざるはくくといふも其音ハ和  
して一也妻子の妻子よまけられ儀正して宿を  
れくく故は其和久しして不憂道徳の和ハ兄  
弟一門も和和睦以瑟琴ハ和を宿うら物をとく  
つて人ハ和すからぬ故は和樂してありあり  
つて室家ハ今家中と云ふこと一室ハ家中ハ凡  
俗にからしむるに孝ハ子孫を積むる如く子孫

此妻子よ及て樂しむ孔子詩を解してのこま  
為此より父母の心順なりんと順ハ父母ら女靜れ  
てわ人乃權心を以てけり也父母者凡和氣れ  
中よありけり是を妻子の心とていハ妻子  
好合し始まり

子曰鬼神之為德其盛矣乎視之而弗見聽之而弗  
聞體物而不可遺

鬼神乃徳ハ盛大流行幽深玄遠靈明不測也其  
盛をことと目をもりて人らくくし耳を以て  
きくくし目をもりて人らくくし  
行はざるもくくし和を以てけり也  
鬼神を以て奉侍する鬼神の遺すといふ

中庸八節一  
 也。天下之物莫非鬼神之所為也。故鬼神為物之  
 體。而物無不待是而有者。以之。而鬼神為物之  
 德。之。以之。而。天。道。鬼。神。自。然。之。理。也。其。實  
 之。妄。也。俗。人。自。月。之。神。也。以。之。象。何。不  
 也。其。神。靈。之。日。月。之。神。也。其。形。何。不  
 の。中。の。人。之。神。也。其。神。何。不。禮。を。以  
 る。樂。を。以。て。六。人。の。所。方。寸。也。神。含。ま。る。と。し  
 然。仁。勇。の。德。何。を。以。て。天下。を。以。て。治。む。神。也。其。鬼。也  
 也。凡。人。何。が。神。の。通。奇。特。と。す。と。ハ  
 迷。つ。り。眼。病。空。花。を。み。ら。す。と。ハ。眼。病。の。治。を。信  
 つ。て。心。を。由。と。す。と。ハ。眼。病。の。治。を。信

使天下之人齊明盛服以承祭祀洋洋乎如在其

上如在其左右

天下の人を以て。齊の盛服を以て。仰ぐ。如くは。神  
 の。德。也。而。其。中。の。人。を。以。て。人。を。以。て。仰。ぐ。如。く  
 反。亦。あ。る。と。人。を。以。て。思。ふ。如。く。仰。ぐ。如。く  
 衆。の。神。の。と。し。て。仰。ぐ。如。く。仰。ぐ。如。く。仰。ぐ。如。く  
 心。を。以。て。仰。ぐ。如。く。仰。ぐ。如。く。仰。ぐ。如。く。仰。ぐ。如。く  
 を。神。の。と。す。と。人。を。以。て。仰。ぐ。如。く。仰。ぐ。如。く。仰。ぐ。如。く  
 乎。人。の。誠。敬。を。以。て。仰。ぐ。如。く。仰。ぐ。如。く。仰。ぐ。如。く  
 也。方。名。は。在。る。と。神。の。形。を。仰。ぐ。如。く。仰。ぐ。如。く。仰。ぐ。如。く  
 也。神。の。流。動。元。満。の。氣。を。仰。ぐ。如。く。仰。ぐ。如。く。仰。ぐ。如。く  
 孔子曰其氣發揚于上為昭明君蒿悽愴此百物之精  
 也神之著也





中庸解上  
 壽と七十餘しんを、終るべし。法命乃中しんて、短  
 し。故ららるれ、一聖の若れ。とらるよ、位極若  
 壽も、必の字を、とらる。孔子、氣運を、衰世の  
 のよ、當りし、生れ、た、地の、愛也。例、よ、あ、と、す、と、  
 了、と、子、歳、乃、ね、文、宣、王、れ、謚、り、り、た、子、乃、礼、樂  
 を、あ、り、万、歳、不、朽、乃、終、紀、を、受、り、た、也。た、子、乃、留  
 貴、元、し、し、し、ん、壽、の、聖、人、乃、中、し、ん、て、短、し、と  
 と、と、と、七、十、有、終、ま、ま、と、と、平、人、乃、し、し、し、し、長、命、也。  
 と、と、盛、徳、い、し、ん、氏、乃、と、と、と、地、れ、悠、り、ん、と、  
 死、生、一、變、也。顔、子、乃、短、命、と、と、と、と、と、と、と、乃、壽  
 じ、わ、ん、や、孔子、ま、ま、や  
 故天之生物必因其材而篤焉故栽者培之傾者

覆之。

材、ハ、質、也。栽、ハ、木、を、う、つ、く、う、つ、く、お、し、ん、根、を、う、  
 く、し、お、り、わ、傾、ハ、木、を、う、つ、く、と、と、と、と、と、と、と、  
 根、を、う、つ、く、お、り、也。う、つ、く、う、つ、く、ハ、雨、露、れ、り、と、  
 ぬ、ぬ、し、ま、す、く、せ、ま、す、ら、く、傾、ハ、木、を、動、す、や  
 う、ま、ま、と、と、と、傾、乃、吹、く、ぬ、す、り、た、り、ぬ、濕、氣、ぬ、  
 ぬ、ハ、虫、動、を、ま、す、し、本、質、同、よ、ま、ま、と、と、凡、由、と、し、  
 天、乃、其、の、育、也。と、ら、ら、根、の、う、つ、く、ぬ、木、の、養、育  
 の、由、よ、つ、り、し、ぬ、り、し、く、り、く、り、わ、ぬ、と、と、と、  
 天、命、ハ、一、ま、ま、と、と、と、命、を、受、り、た、の、上、地、よ、も  
 て、福、と、り、わ、福、と、ま、り、り、人、の、福、吉、福、福、と、  
 し、と、ら、ら、ハ、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、同

一為命をさしとて台心の名に福あり。要ん此  
まの福あり。君易侯命に多福を受ふ生樂之  
裁者にこれを培ふ也。行險徼幸に災害を受  
ふ下地に傾者にこれを覆すの如し。是天れ物に  
生ずらん其材質よりなりわ。

詩曰嘉樂君子憲憲令德宜民且人受祿于天保  
佑命之自天申之故大德者必受命

嘉は日出度ると云。目公度樂めり君子と人氏  
つとを祝して美と感といはれ。此樂の詩。且り  
礼と樂と成氣と遊乃のゆをうけり。すづく  
道徳の人乃樂也。とに道徳の樂は君子と云。天  
下平ありし。是乃民安し。これ目公度樂と云。天の

樂は不知。必ず俗あり。流るるれ。俗あり。奢  
けして人民困窮し。小政も久あらず。これ月  
出りし。さう樂と憲。このめり。今に言は。此嘉樂の  
君子。憲と云。ある令善れ。徳あり。民のわ  
も。と。人乃わ。と。人氏。且。澤。を。う。る。  
了。徳。は。化。して。言。人。と。り。官。職。あり。を。令  
い。は。を。信。を。民。と。之。わ。を。信。い。え。と。れ。は。民。の  
衆。り。して。命。也。且。つ。と。人。命。乃。存。じ。は。民。の。わ。を。  
す。わ。は。君子。の。人。氏。の。君。師。を。わ。を。福。を。え。と。わ  
受。あり。人。力。は。好。し。好。し。と。り。す。一人。を。取  
て。下。を。治。し。じ。一人。を。下。を。あ。と。り。と。り。は。  
天。命。也。必。初。と。又。あり。と。人。乃。威。命。は。慎。し。國

天下の富有皆人氏乃ありし。わ欲のわ  
と。故に大をばむありし。福を  
命に与へし。又命れとよ。又幸福を  
此と。人の徳に重んずる人の徳也。重んずる人の徳也。故に  
人爵とよ。と。命に与へし。必りもよ。  
し。天下の徳の實を命に与へし。必りもよ。  
す。

子曰無憂者其唯文王乎。以王季為父。以武王為  
子。父作之。子述之。

天下の徳に重んずる人の徳也。重んずる人の徳也。故に  
人爵とよ。と。命に与へし。必りもよ。  
し。天下の徳の實を命に与へし。必りもよ。  
す。

堯舜の父子徳に。重んずる人の徳也。重んずる人の徳也。故に  
人爵とよ。と。命に与へし。必りもよ。  
し。天下の徳の實を命に与へし。必りもよ。  
す。

文王と武王は各あまのことして自己のこゝろを修め  
みまひをせり。文化して子述りて人倫に常す。古  
よりとてい常す。古より人古とまはれ故に

**武王纘大王王季文王之緒壹戎衣而有天下身  
不失天下之顯名尊為天子富有四海之內宗廟  
饗之子孫保之**

大王の諡号として周の國を仁人として其の子王季  
賢人也。王季乃子文王也。共々諡号して緒の業を  
大王は季文王の業を仁政として其の子王季の  
徳の緒業を纘にして仁政を以て之を承りて其の  
聖人也。我は其の徳を以て我は其の徳を以て其の服を

甲冑の事也。一たび丁もあれば戦を  
好まざり。天命もまわらざれば己にして甲  
冑を多し。故に己が一戰して天下定むれば紂は  
王也。武王は當の周侯也。紂にして其を以て其の  
惡名を以て其の徳を以て其の徳を以て其の徳を  
とて其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て其の徳を  
乃人民貴徳として其の徳を以て其の徳を以て其の徳を  
百姓の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て其の徳を  
以て其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て其の徳を  
とて其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て其の徳を  
を以て其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て其の徳を  
起りて其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て其の徳を



とて大夫と期し、いふ所のくすらふと政よつとら  
りふとて三年に喪は天子よ進すといふ天子とい  
ふと父母よ進すとす道にや守れど故に父母  
の喪は、喪法に別り、世に可代に授よ、五部  
れよのふ、父の死を継人一人として兄弟とわら  
居るとわ、直に成ておふとわ、是を今に居  
しと、おの衰微せず、士氏共に困窮せざるは徳  
なり。

子曰武王周公其達孝矣乎夫孝者善繼人之志  
善述人之事者也

舜の孝は君たり、故に大孝といふ  
武王周公の孝は、よく愛よ通す、故に進孝

このことより、孝なるを、父祖の志を以て、  
事業に終る。武王周公の父は聖人也、先祖の賢  
なる仁人也、其志を継、其事を述て、進孝なる  
ゆへ、張子云、知化則善述其事、窮神則善繼其志、  
これより、孝なる也、武王周公の父祖は、聖賢也、  
是より、孝なるも、その父を孝なる也、西山真氏云、  
當持守而持守固、繼述也、當變通而變通亦繼述也、  
平定文、人の徳を、人の徳を、  
春秋脩其祖廟、陳其宗器、設其裳衣、薦其時食、  
春、陽氣始、始、秋、陰氣始、始、夏、土氣始、始、冬、水氣始、始、  
時、各、其、祖、の、廟、へ、つ、き、し、神、を、と、り、し、  
中書小解上

一、取しりて祭る。是ハ天子の侯乃リ。士庶人など  
祠堂を大ニ。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
色ハ。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
結ぶ。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
おろろ。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
五代目。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
行。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
廟ハ。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
制。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
掃除。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
の。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
乃。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など

時食ハ。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
以。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など

宗廟之禮所以序昭穆也。序爵所以辨貴賤也。序  
事所以辨賢也。旅酬下爲上。所以逮賤也。燕毛所  
以序齒也。

左を昭とす。陽的の義也。右を穆とす。陰也。  
の。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
の。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
の。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
の。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
の。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
の。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
の。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
の。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
の。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など  
の。天子乃リ。侯乃リ。士庶人など



孝くやふまの廟中よ業ふふよりごとく故く  
 其を治て酒燕乃の小年治はるよよ置て位  
 職管身皆そら看よふてらこて下乃を達そは  
 中よふふそふこ又ふあましく事あはたさうづま  
 のあはたはしくして長者よ礼を約くこれゆはる  
 あり早賤よ及して人をも捨ざらゆんあ紀中に  
 おわしてあふ下乃政乃のたふはあふす  
**踐其位行其禮奏其樂敬其所尊愛其所親事死  
 如事生事亡如事存孝之至也**  
 位ハ天子の位也其礼具樂ハ先王乃化ウレハ礼

樂也。儀つては受て先王乃位をいふ也古樂を奏也  
 古礼よりん述其事也。志うはれと礼法の小節ハ

六十年のときとて時愛人情をけりて今くゆひ  
 たき勢あり百年とれてはゆひがたき事と  
 るゆゆ順て愛也一ゆひ事そのゆゆ中に  
 志を達而ゆひ法よりんまはゆひ共の中し  
 大道を立るゆひ先王乃志を達すもその前ハ全  
 のゆひゆひハ祖考也或は周をいふゆひ  
 を先王といふゆひハゆひのゆひゆひハ大  
 王季也徳を王名をゆひもそのまを奉りて  
 其親のゆひ子孫也昔あふハゆひゆひハ  
 してゆひゆひゆひゆひゆひゆひゆひ  
 ゆひゆひゆひゆひゆひゆひゆひゆひ  
 ゆひゆひゆひゆひゆひゆひゆひゆひ

是志を継也百友の士をいひて〜  
故に先王の志を〜位を譲の中より生み出し  
死にても〜とす也孝子乃ち不親をま〜と  
思はず故に存せしめらる〜孝乃ち必し踐  
其位にわ如事なす〜を〜しつる。

郊社之禮所以事上帝也宗廟之禮所以祀乎其  
先也明乎郊社之禮禘嘗之義治國其如示諸掌  
乎

郊ハ天を祭り社ハ地を祭り上帝ハ北辰ニ上  
帝后云とつゝ〜に〜地を中よりり  
一陽始り〜南郊をま〜して天

子解云帝を祭り夏至陰氣始り〜  
ハ小郊として后を祭り〜丈夫地ハ人民大  
又母り〜の〜天子と〜  
人氏を教治て造化を〜  
天子終り一人と〜  
天子終り終り終り〜  
諸領を〜  
天子終り〜  
天子終り〜  
天子終り〜

厚多初をてま。夫々ねをねゆみのれむし。易易やわ  
至致よ、文やふれね。今も樹すし、わ軍機と  
ぶとを。王いふ子としく。わらして、ねと成をねん  
を致のねよ。つてわ。宗いふと。廟、形と。親入初乃  
邦を。ねて。締、夫子ぶ宗廟の大なる。嘗、秋  
乃あに。秋、このなり、ね成統し。万民其以ぬ  
のしむ。故よ。是を報し。をねて。乃あに  
盛盛やうと。みよ。わ。全よ。さ、い。わ。に  
を致文いし。秋、親し。と。多る。で。文。乃。大。能  
ま。み。て。し。と。と。夫。帝。を。宗。り。と。上。帝。の。賓。乃。如  
し。日本。より。し。この。礼。乃。し。わ。伊。勢。右。神。宮。以。主  
と。と。夫。よ。配。し。し。ね。り。の。し。大。能。よ。と。と。能

せして、成し。し。は。郊。社。締。嘗。乃。宗。祀。の。名。祀  
を。め。ふ。知。と。人。あ。と。夫。下。を。平。治。し。あ。ん  
し。と。の。内。を。み。ら。し。く。易。く。し。と。也。は。此。れ  
孝。の。下。の。し。也。唐。小。目。を。示。と。つ。ら。あ。て。同。宗。の  
名。を。宗。て。右。平。乃。切。を。さ。く。り。わ。い。し。と。は  
何。を。や。と。め。し。あ。ら。わ。成。乃。し。成。あり。さ。ら。は。真  
乃。ゆ。よ。あ。し。と。と。者。郊。乃。し。と。乃。地。を。宗。祀。ひ  
て。乃。林。地。祇。よ。叶。あ。ん。と。則。施。乃。地。と。と。と。と。能  
の。む。た。め。し。あ。ら。わ。治。平。乃。易。く。ら。し。し。

哀公問政子曰文武之政布在方策其人存則其  
政舉其人亡則其政息

哀公、孔子ありし、魯の君也、此書を治る乃政

乃を以て行はく。周乃未也。故は文武  
 武王乃政をのまき。又政は治世を共す。文武  
 乃を以て行はく。文を武とみし。武を文  
 乃を以て行はく。板とみし。字を以て行はく。策  
 乃を以て行はく。文を以て行はく。書とみし。  
 昔は墨子乃を以て行はく。也。文を以て行はく。書  
 乃を以て行はく。也。文を以て行はく。書乃の  
 乃を以て行はく。文を以て行はく。書乃の政を  
 乃を以て行はく。文を以て行はく。書乃の政を  
 乃を以て行はく。文を以て行はく。書乃の政を

人道敏政地道敏樹夫政也者蒲盧也

蒲盧乃あり。土也。人民政事とあり。

地人氏は夫より。政事は人君より。  
 知る。政は人君を以て。人君を以て。政  
 の乃を以て。地は物を以て。生を以て。蒲盧  
 乃を以て。也。生は。人傷む。人傷む。人傷む。政  
 事乃の乃を以て。地は。人傷む。人傷む。人傷む。  
 用は。人傷む。人傷む。人傷む。人傷む。人傷む。  
**故為政在人。取人以身。脩身以道。道以仁。**  
 為政在人と。賢臣を以て。取人以身と。賢者  
 乃を以て。同祥を以て。賢者乃を以て。故は。所  
 乃を以て。道を以て。賢者乃を以て。

仁者人也。親親為大義者宜也。尊賢為大親親之  
 殺尊賢之等禮所生也。

仁、天地生物の理なり。仁と云ふは、廣大高明精微  
 中庸の妙見なり。人にして仁を有するを以て  
 仁と云ふ。人にして仁を有するを以て、  
 仁と云ふ。人にして仁を有するを以て、  
 仁と云ふ。人にして仁を有するを以て、

仁者也。わがくても順を好む。道は仁のひまはぬ  
 死を以てて。仁を好む。仁を好む。仁を好む。  
 中。を以てて。仁を好む。仁を好む。仁を好む。  
 生順道。天地万物皆我也。故に物我を以てて。  
 不仁なり。は是のち。仁を好む。仁を好む。仁を好む。  
 はを以てて。好む。仁を好む。仁を好む。仁を好む。  
 に。仁を好む。仁を好む。仁を好む。仁を好む。  
 を。仁を好む。仁を好む。仁を好む。仁を好む。  
 を。仁を好む。仁を好む。仁を好む。仁を好む。  
 を。仁を好む。仁を好む。仁を好む。仁を好む。  
 を。仁を好む。仁を好む。仁を好む。仁を好む。



後天、もわつても、君臣の徳を立て、存の教、行つた  
 べり。五を、徳の約、つくと、仁知勇、これ、徳より、れ  
 べし。これ、も、下、古今、共、徳、徳、の、徳、之、故、に  
 在、徳、と、之、下、知、仁、勇、あり、時、に、と、に、行、一、と、り  
 ず、て、真、の、徳、は、行、に、動、徳、は、切、て、聖、子、乃  
 心、法、を、不、知、れ、ば、分、り、り、仁、勇、を、起、り、無  
 愛、あり、て、知、勇、を、も、あ、剛、強、り、て、仁、知、を、起、り  
 べし。大、の、三、と、も、に、動、徳、は、備、ら、し、行、は、た、心、法、を  
 る、と、これ、を、行、所、の、一、と、を、知、ゆ、つ、は、明、な  
 叶、て、ゆ、ふ、知、一、の、あ、り、を、お、知、ら、ん、と、し、て、は、り  
 こ、の、あ、り、知、仁、勇、の、徳、と、り、り、り、て、卒、人、に、り、事、の  
 べ、し、一、は、も、一、貫、九、心、法、に、知、仁、勇、の、大、一、の、切

天夫味

ゆ、ら、徳、を、も、づ、ん、と、行、つ、と、ら、あ、の、な、ま、れ、と、も

一の心法を不知らば有がごとく、  
 或生而知之或學而知之或困而知之及其知之  
 一也或安而行之或利而行之或勉強而行之及  
 其成功一也

生、も、く、知、安、し、て、行、は、聖、人、也、學、し、知、利、し、て  
 行、は、大、賢、人、也、困、て、知、は、り、て、行、は、吝、人、也、是、ら  
 多、分、を、あ、り、と、わ、吾、人、と、い、て、は、し、知、安、行、の  
 一、良、知、を、行、は、聖、人、の、生、れ、ぐ、知、れ、は、賢、人、  
 吝、人、と、し、を、教、は、ま、す、し、し、知、は、吝、也、亦  
 一、有、す、ん、じ、又、學、知、利、の、あ、り、一、の、び、き、て、是  
 故、と、わ、し、ん、て、行、は、と、あ、り、一、の、あ、り、と、あ、り、明

而わきどく重人としてとて孝知らず周より礼  
 を老子と同様の樂を喜びらるるは皆如斯く  
 大衆の樂を因て三月肉の味を忘れてこれと  
 奏し多し一利してゆく事よまといさく字  
 を俟て知らず也又重人としてとて困知勉行  
 ありし如く施し衆をさすは堯舜とこれ  
 をやゆり形あり者其の及ことあり也  
 洪水天下よりゆり一時禹あり八年三度其  
 門をさして入浴すこれ重人のとて困知勉行  
 ありし如く安んじ仁也孝知利ありて困知勉行と  
 勇孝くはく徳成就すは及して皆孝子  
 其樂一也或問知仁勇一徳也と云らるるは  
 けい云

八はともや云らるるはけいささどもありて  
 多はなり也

子曰好學近乎知力行近乎仁知恥近乎勇

實は孝子と好むはまじひとて孝子と人非を  
 目くいの母進むをふ知よと目く小善をま  
 てやまざらるるを力約と善積て入徳乃功と  
 仁は令徳の名也故は仁は近し柔弱の  
 心感するは仁は近し柔弱の心は  
 ぎうの心は近し一文不通の人下愚を  
 知し大は志をばきまはるる如く  
 二道の士と成らるるあり人は存する  
 ことあり故は勇小近し





知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

知所  
以治人  
則知所  
以治天下  
國家矣

